

O3-035

ブラジル人学校と公立小学校の
子どもの体組成および生活習慣の比較小原 成美¹、山崎 彩¹、李 孟蓉¹、長井 祐子²、
竹内 真理²、青柳 千春³、長嶺 竹明⁴、正木 光裕¹¹高崎健康福祉大学 保健医療学部²高崎健康福祉大学 健康福祉学部³東京家政大学 人文学部⁴博仁会第一病院 内科

【背景・目的】

研究者らは、ブラジル人学校を対象とした健康診断事業、運動・栄養・保健指導講座を実施してきた。今回、ブラジル人学校の健康診断項目の一部を公立小学校の子どもにも実施し、ブラジル人学校と公立小学校の子どもの間で体組成と生活習慣を比較した。

【方法】

対象は、A県内にあるブラジル人学校の学童期の子ども20名（ブラジル人学校群：9.4±2.0歳）、公立小学校の子ども19名（公立小学校群：8.7±1.6歳）とした。体組成に関して、体成分分析装置（InBody470）を使用し、立位にて全身の骨格筋量、左右腕筋肉量、左右脚筋肉量、全身の体脂肪量、左右腕体脂肪量、左右脚体脂肪量、体幹体脂肪量を測定した。体組成は、体重で除した百分率（%）も算出した。生活習慣に関して、公立小学校の子どもには研究者らが作成した日本語の生活習慣評価表を使用し、食事、運動、睡眠、清潔、生活、歯と口（6側面にて各5項目、合計点数が高いほど生活習慣が良い）の30項目を点数化した。ブラジル人学校の子どもにはポルトガル語に翻訳した評価表を用いた。また、部活動の参加の有無、地域のスポーツ関連チームへの所属の有無も調査した。

統計解析において、体組成、生活習慣、年齢、身長、体重はMann-Whitneyの検定、性別、地域のスポーツ関連チームへの所属の有無は χ^2 検定、部活動の参加の有無はFisherの正確確率検定を用いて群間で比較した。統計の有意水準は5%とした。本研究は本学における研究倫理委員会の承認を得て実施した。

【結果】

群間比較の結果、体脂肪量、左右腕体脂肪量、左右脚体脂肪量、体幹体脂肪量は公立小学校群よりもブラジル人学校群で有意に増加していた。体重で除した百分率では、体脂肪量、左右腕体脂肪量、左右脚体脂肪量、体幹体脂肪量はブラジル人学校群で有意に増加し、骨格筋量、左右脚筋肉量はブラジル人学校群で有意に減少していた。生活習慣では食事、運動、清潔において、ブラジル人学校群で有意に低下していた。その他の項目に有意な差はみられなかった。

【考察】

ブラジル人学校の学童期の子どもは公立小学校の子どもよりも自身の体重に見合った筋量が減少しており、脂肪量が増加していた。ブラジル人学校の学童期の子どもの生活習慣に関して、食事、運動、清潔面での保健指導の必要性が示唆された。

O3-036

園児の腎臓病および
糖尿病検診の有用性について岩池 彩、深津 満、岡田 和洋、鈴木 麻美、
前田富起呼、鈴木 研史

岡崎市医師会

【背景・目的】

岡崎市・幸田町の公立及び私立の保育園・幼稚園・こども園では、糖尿病・腎臓病検診として、2015年から包括的な管理を行うための検診体制を構築している。検診体制の紹介と9年間の検査結果および受検率について報告する。

【対象】

2015～2023年度の9年間に就園した0～5歳児：132,295名のうち、1次検査を受検した130,108名。（年平均14,456名）1次検査受検率は98.35%となった。これは、岡崎市、幸田町の0～2歳児102,770人の21.20%、3～5歳児112,216人の96.53%に相当する。

【方法】

毎年4～6月、園に当医師会が早朝第一尿を回収し、1次検査（機械法による尿定性検査：蛋白、潜血、糖）を実施。蛋白（±）の場合はスルホサリチル酸法を実施。1次検査異常者は、2次検査（1次検査と同方法）を実施。2次検査異常者は、当医師会員の協力医療機関にて、3次・4次検査を実施。3次・4次検査の結果及び報告は、検査結果報告書記入後、当医師会へ送付、専用報告書を作成し岡崎市・幸田町を通して各園に送付される。

【結果】

1次検査異常者は年平均333名（2.30%）であった。2次検査受検者数は年平均248名（受検率74.47%）であった。3次検査受検者総数は1,173名で、「異常なし」542名（年平均60名）、「要観察」350名（年平均38.89名）であった。4次検査受診者総数は187名で、「異常なし」54名（28.88%）、「要医療」23名（12.30%）、「経過観察」65名（34.76%）であった。I型糖尿病8名、腎炎（疑い含む）26名、その他、突発性尿細管機能異常症や、副腎腫瘍などがみつまっている。

【考察・結語】

2次検査まで園で行うことで2次検査の対象者1,582人（70.69%）が陰性となり、医療機関への不要な受診者を減らすことができた。4次検査では、腎臓病・糖尿病以外にも疾患の早期発見、早期治療につながっていると考えられる。また、1次検査で2,187名（1.65%）、2次検査757名（25.28%）、3次・4次検査205名（16.05%）、年平均350名（2.42%）の未受診者がいる。この対応方法が今後の課題である。